

鵝口瘡

〔倭訓栞志中編十〕したとき 鵝口瘡をいふ、舌に癩シトキの如き物のいづるなり、小兒の疾也、

〔瘍科秘録八〕鵝口瘡

鵝口瘡ハ、俗ニシラシタト云フ、小兒初生ノ病ナリ、初發ハ舌上及ビ上腭ニ班々ト白點ヲ發シ、乳渣ニテモ付タルヤウニ見ユルモノナリ、二三日ノ内ニ、口舌及唇マデモ一圓ニ白ク、米粉ヲ敷タルヤウニナルモノナリ、舌腫痛シテ、不自由ニナルト見ヘテ、乳ヲ吸カ子、或ハ一向飲マヌモアリ、久シク愈ザルトキハ、啼叫シテ止マズ、遂ニ驚癇ヲ發スルコトモアレバ、ユルカセ忽略ニセズシテ、早ク愈スヲ專務トス、大人ノ鵝口瘡ハ、微ク因ヲ異ニス、癰疽、温疫、痢病久シク愈ズ、及産後等ニテ虚脱シタル者ニ有リ、口舌腫痛シテ白點ヲ生ジ、眞白ニナリテ、米粉ヲ敷ガ如シ、飯食モ一向ニナラヌ様ニナリ、至極ノ虚候ニテ治シ難シ、白砂胎ト云フモ、此證ヲ指スナルベシ、但鵝口瘡ノミ惡候トナスニ非ズ、一體本病ガ大病ユヘ、治シ兼ルナリ、

〔病名彙解二〕鵝口瘡 俗ニ云小兒ノシタシトギナリ、又雪口トモ云リ、丹臺玉案ニ云、何ヲ以テカコレヲ名ヅケテ鵝口ト云、鵝口トハ、滿口皆白シテ、鵝ノ口中ニ似タルコトアリ、俗ニコレヲ雪口ト云、病源云、小兒初生、口裏ニ白屑起リ、スナハチ舌上ニ至テ瘡ヲ生ズ、鵝ノ口ノ裏ノ如シ、此胎アルトキ、穀氣ヲ受ルコト盛ニ、心脾ノ熱氣口ニ薰發スルニ因故ナリ、

〔兼葭堂雜錄三〕小兒鵝口瘡をわづらひ、乳を飲かぬる時は、死に及ぶこと少からず、是には天南星を末にし、粘にねりて紙にのばし、足のうらの土ふますに張べし、二時或は三時ばかりして乳を吸ふなり、

口臭

〔醫心方五〕治口臭方第五十二

病源論云、口臭者、由五藏六府不調、氣上胸膈、然府藏之氣膠腐、因蘊積胸膈之間、而生於熱、衝發於口、故含口臭也、